

成果報告書

地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

| | | | |
|-----------|---|-----|-------|
| 団体名 | 公益財団法人日本センチュリー交響楽団 | | |
| 所在地 | 大阪府豊中市 | 設立年 | 1989年 |
| 運営主体 | 公益財団法人日本センチュリー交響楽団、豊中市 | | |
| 事業目標 | 庄内みんなのための音楽教室(エル・システム in 豊中)』を実行することにより、生徒たちの「豊かな心の育成」に加えて「主体的に表現する力」「目標に向けて頑張る力」「コミュニケーション能力」などを育むことに繋がることを目標に掲げて活動する。 | | |
| きっかけ | 平成29年度より、豊中市は、南部地域活性化構想を掲げており、統合する小中学校の跡地を地域の魅力に直結する活用を計画しています。その計画と連動する形で、統合する小中一貫校において「エル・システムin豊中」を実施することにより、音楽を通して子供たちの個性や取り組む意欲を育むことができると考え事業の計画を立てることとした。 | | |
| 団体・組織等の連携 | 日本センチュリー交響楽団が運営コーディネーター・指導者の派遣、全体の統括を行い、豊中市が会場となる学校との調整、他の地域事業との連携・調整、今後の資金調達。エル・システムジャパンが楽器の貸与、講師陣との連携、カリキュラムの進行をサポートを行う。 | | |
| 活動場所 | 豊中市立野田小学校、豊中市立島田小学校、センチュリーオーケストラハウス(発表会場) | | |
| 活動概要 | 経済状況や障がいの有無に関係なく誰もが放課後に参加できる小学生対象の無償の音楽教室「庄内みんなのための音楽教室(エル・システム in 豊中)」を開催。エル・システムジャパンのカリキュラムに則った形で、放課後の時間を利用して隔週に1回のワークショップを実施。 | | |

○本事業による成果

放課後の学童保育の一部となるような実施をしたため、1年生から6年生まで全学年の生徒が参加できたことは上記の「きっかけ」や「目標」に記載した内容に則した成果が出せたのではないかと考えています。学校の音楽室をお借りして実施しましたが、楽器を準備室に置かせていただく事以外は音楽教員の方々にご面倒をおかけすることなく終えることができました。

また、各学校で積み重ねたワークショップの成果を発表会で披露できたこと、岩手県大槌町で行っているエル・システムの先輩たちが豊中に来て発表会に参加してくれたことは、ヴァイオリンを通じて学校の枠を飛び越えた交流に繋がったと自負しています。

○児童・生徒への指導に関する工夫

講師は、当楽団のメンバー、エルシステム経験者、ヴァイオリン奏者・指導者の3名を据えて、子供たちとの接し方が上手な人材を確保しました。生徒たちが飽きないように、各回ごとに最後は発表をして終わるなど、単なる指導ではなく個々の生徒が自発的に参加する雰囲気を作りながらワークショップを行っています。ヴァイオリンはデリケートな楽器だということを楽器の出し入れの時に指導しており、弓をたるましたり、弦を拭いてしまうなど楽器を大切に扱うことも併せて指導しています。講師一人一人が専門的な技術を持っており、生徒に的確な見本を示しながら指導することができています。

○運営上の工夫

講師の選定、確保については、楽団のメンバーだけで考えずに、エル・システムジャパンや豊中市に相談しながら地元で活動する音楽家やエル・システム経験者を据えることで技術だけに偏らないようバランスを整えました。

ワークショップを平日の放課後に行うため、楽団と豊中市の誰かが必ず立ち会えるように調整し、生徒たちの募集については、各学校の先生と豊中市とで連携を取りながら、参加しようか悩んでいる生徒に積極的に声掛けをして参加人数を増やすことができました。

2月25日に開催した発表会では、多くの保護者にお越しいただき、お子様が頑張っている様子を見守って頂きました。

使用楽器はエル・システムジャパンよりあらゆるサイズのヴァイオリンを貸与いただき、生徒の身長に合わせたヴァイオリンで練習することができ、楽器は各学校の音楽準備室で預かっていただきました。

○継続的な運営に関する課題・展望

継続的な運営のための話し合いを幾度となく重ねており、自治体が行う企業版ふるさと納税の活用を模索しておりますが、具体的な実施には至っておりません。

この事業の規模を拡大することになれば講師の数を増やすことも考えますが、現時点で実施回数や参加人数を大幅に増やすことは考えておらず、まずは活動資金に見合った規模感で継続していくことを考えています。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

当楽団の活動資金を本事業に投入することは、楽団の運営上非常に難しいため、自治体が行う事業への転化、自治体の予算取り、企業版ふるさと納税などによる資金の確保がないと、継続して行うことが難しいと考えます。

○令和4年度 取組状況等

| | | |
|----------|--------|--|
| 参加者 | 人数等 | 25名 |
| | 学校名 | 豊中市立野田小学校、豊中市立島田小学校 |
| | 募集方法 | 各学校で体験会を実施し、学校単位で募集を募った |
| 指導者 | 人数等 | 3名 |
| | 募集方法 | 楽団メンバーだけではなく、エル・システムからの紹介、豊中市からの紹介により指導者を選定 |
| 参加者の移動手段 | | 公共交通機関 |
| 活動費用 | 指導者謝金等 | 地域文化倶楽部助成金を活用 |
| | その他 | |
| 活動財源 | 会費 | 特に徴収はしていない |
| | その他 | 地域文化倶楽部助成金を活用 |
| スケジュール | 基本活動 | 事前協議 2022年5月～9月 各学校でのワークショップ 2022年10月～2023年3月 |
| | 年間 | 下半期のみの開催 活動の成果を発表会という形で実施 |
| 保険加入等 | | 行事参加型保険(2月25日発表会) |

【活動の様子（写真添付）】

